

安心の介護保険制度を求める阿部会長あいさつ

みなさん大変お世話になっております退職者連合の阿部です。

介護保険制度が発足して16年が過ぎたところです。この間何度も制度の見直しが行われていますが、見直しを行うごとに制度が改悪されています。

すでに要支援1と2は、打ち切られています。そして、いま政府が検討しているのは、要介護1、2も打ち切る、軽度者を打ち切るということであります。

要介護1、2は、自治体へ移行するか全額利用者負担にするとしていますが、このように軽度者を打ち切るということは、重度化しないと給付はしないということになります。利用者は重度化するのを待っていることになる・・・、こんな制度にしてはなりません。これでは制度があって介護なしと言わざるを得ない。介護保険制度が我々国民からどんどん遠い存在になっていくのではないか。

何故こういうことを政府がやろうとするのか。それは財政的に困難だということだと思う。そうであれば介護保険制度の基盤を整備すべきだと思う。この制度は保険制度でありながら被保険者は40歳以上となっている。これを見直し医療保険のように国民皆保険を目指すべきであると考えます。もちろん新たに被保険者になる方の保険料をどのように設定するか、また、障害を持つ方の給付をどう充実するか等の検討は必要になります。

退職者連合は、すべての国民が人間としての尊厳を持って人生を全うする、そういう社会を構築したい。そういう社会をつくるには介護保険制度が最も重要であります。質の高い介護保険制度を作るために、皆さんとともに努力していきたいと思っています。



連合主催の「安心の介護保険制度の確立と介護人材の処遇改善実現を求める11.11市民集会」での退職者連合阿部会長の報告

- ①日時 11月11日(金)18:30から
- ②会場 ニッショーホール(都内・港区)